

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用語等を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年5月29日(月)

運動会がりの回を振り返る

運動会に保護者の皆様を始め、多くの方々に支えられ、成功裏に終わりましたことを大変嬉しく思います。

この時期、運動会が終わり、目標が無くなってしまったり、少し心に穴が空いてしまった感覚に陥ることがあります。「疲れた」「運動会が終わった感じがしない」「学校休みます」「私達の時代にはあんなに得意な事がない」といった思いが、今や当たり前になっています。そんな時に、何を必要かという、学びたいことを次のステップへ活かしていくことです。運動会の勝ち負けだけに拘り過ぎず、「負け」を最終ゴールと捉え、その後の目標を設定し、次の目標を見出せなくなったり、その事が原因でルールを守れなくなったりする事があります。中学生や高校生も同じような「負け」を経験する事があります。所謂、燃え尽き症候群と同じです。

私はこれまでの取組を見て、子ども達の大きな成長を感じています。6年生は期待値以上に成果を上げてくれたと思います。勝ち負けに関係なく、お金には買えない貴重な経験を積んだことは思っています。

閉会式の時、6年生数名の児童の目には光もありませんでしたが、私は嬉しく思います。殆どの子供が達成感を感じたのではないのでしょうか。これまでの取組が「水面下」では、本気だったこと、現れたこと、勝つことも、負けることも、大切なことです。6年生は、運動会をチームで楽しむことの大切さを学び、やり遂げるという達成感や充実感を味わったこと、それを大切に伝えていくことが、大切なことです。

6年生は、後の目標に向けて、回を振り返ることで、色々と学ぶことができます。運動会の余韻に浸ってはいけません。次のステップに向けて活動を開始する時期にきています。今後とも多くの貴重な経験を積み、地域の「誇り」を活躍していきましょう。



シリーズ「自分を語る」#04

さて、2回目の研修を終え、研修員チェサと国際通りへ。

国際通りは、那覇市の中心近くにある約1.6kmの通りの名称です。戦後の焼け野原から目覚ましい発展を遂げた、長さが約1マイルであるところから、『奇跡の1マイル』とも呼ばれているそうです。沖縄県最古の賑やかな通りであり、那覇最大の繁華街です。という訳で、チェサさんも私もアルコールは嫌いでありません。チェサさんは韓国の伝統楽器の太鼓のプレイヤーでもあったため、蛇皮線、三線に興味をもち、「三線の牛演奏」を学んでいる店に行こうという話になりました。お店を探しました。

結構あるものですね、国際通りにはそういう店が数件ありました。お店に入ると頼んだのは、勿論、オリオン・ビールです。私は沖縄最後の夜だと思い、結構飲んでいました。チェサさんは真剣に演奏に聴き入っていました。私は、オリオン・ビールから泡盛、つまみは揚げ豆腐、ミミカ、海苔、豆腐、すきから出来上がった。チェサさんは「一枚の太鼓を聴かせてください。その太鼓に書かれているお店の案内は当然私です。酔いも覚めますよ。」

国際通りは飲食店が多いのですが、お土産も多いです。琉球ガラスを一つ買って帰ろうと思いお店を探していると、通りの向かいに「ハブ酒」が売ってあります。梅酒を作るハブの葉を乾燥させたハブ酒。しかも口をわすねる酔いがある。・・・ホンとだ！ 舌が長い！ すっかり酔いが覚め、またまた「ハブ」が隠れている。・・・と訳の分からぬことを書きながら、国際通りを歩くオッサンです。沖縄は「ハブ」がいろいろある。等々書いています。目的地「判書」のおみやげ。飲み会のおみやげ。チェサさんは演奏に聴き入り、私は沖縄の郷土料理で一杯。ゆったりとした時間が流れていくと思いきや、チェサさんは地元の人と仲良くなり、地元の人と踊り始めました。

「サトサタンキキクカタサイ」「え〜〜〜」

沖縄の民謡と踊りが私を感動させ、私も同様見舞いでもうちょやってみました。2回目の夜は、多国籍オッサンを僱入る包とてなりました。

沖縄を離れる日、ホテルのチェックアウトは遅くでした。当時の熊本、那覇の便は厚前期の観光という視点で考えると不便な時間でした。それが、ホテルでゆっくりした後、空港でお土産を買って帰るという楽しみになりました。チェサさんは行くつもりのものがありませんでした。それは、三線、ピアノ、というものであった。最後の夜、空港で時間を確認した。チェサさんは「お土産」がほしい。当然、良いものは高い。お土産は高い。チェサさんは「お土産」がほしい。だが、流石に安いものであればお土産かかってもいい。チェサさんは「お土産」がほしい。搭乗時刻が近づいてきました。チェサさん行きませう。私達、多国籍オッサンは、オッサンオッサンの沖縄を満喫し、帰路に着きました。飛行機の窓から見える沖縄の海は、いつも綺麗で、それを思えば「今度はお土産をもらって帰る」と思っていた。 (ついで)